

特定非営利活動法人ブロードバンド・アソシエーション定款

平成28年4月14日変更認証

第1章 総則

[名称]

第1条 この法人は、特定非営利活動法人ブロードバンド・アソシエーションという。

[事務所]

第2条 この法人は、主たる事務所を東京都港区に置く。

2 この法人は、前項のほか、従たる事務所を大阪市北区に置く。

第2章 目的及び事業

[目的]

第3条 この法人は、ブロードバンドが社会を変革していく中核的インフラとしての可能性に期待が高まるなか、実際に使って下さる方々に喜んで頂け、市民生活の様々な場面でのコミュニケーションに役立つモデル構築のための調査・研究をし、新しい時代にマッチした産業の創出とネットワーク社会の確立により、市民生活の向上に寄与すべく設立される。

その骨子は「ブロードバンドを新しい時代のコミュニケーション産業とするための情報交換・交流・研究の場を設定・プロデュースし、利用者のためになる新規のビジネスの育成や市民生活を豊かにするためのサポートという社会貢献活動をする」ことにより公益に寄与することを目的とする。

[特定非営利活動の種類]

第4条 この法人は、前条の目的を達成するため、次の種類の特定非営利活動を行う。

- (1) 社会教育の推進を図る活動
- (2) まちづくりの推進を図る活動
- (3) 学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動
- (4) 環境の保全を図る活動
- (5) 地域安全活動
- (6) 国際協力の活動
- (7) 情報化社会の発展を図る活動
- (8) 科学技術の振興を図る事業
- (9) 経済活動の活性化を図る事業
- (10) 以上の活動を行う団体の運営または活動に関する連絡、助言または援助の活動

[事業の種類]

第5条 この法人は、第3条の目的を達成するため、特定非営利活動に係る事業として、

次の事業を行う。

- (1) ブロードバンドを使った活動をしている産・官・学・民交流の場の運営
- (2) ブロードバンドサービス及びユビキタスサービスの実証実験
- (3) ブロードバンドコンテンツサービスの育成とサポート
- (4) 交流会・研究会・セミナーの開催

2 この法人は、次のその他の事業を行う。

- (1) ブロードバンドコンテンツのマーケット構築と運営
- (2) 新しいブロードバンドの利用法についてのコンサルティング

3 前項に掲げる事業は、第1項に掲げる事業に支障がない限り行うものとし、その利益は、第1項に掲げる事業に充てるものとする。

第3章 会員

[種別]

第6条 この法人の会員は、次の2種とし、正会員をもって特定非営利活動促進法（以下「法」という。）上の社員とする。

- (1) 正会員 この法人の目的に賛同して入会した個人及び団体
- (2) 賛助会員 この法人の目的に賛同して賛助するため入会した個人及び団体

[入会]

第7条 会員の入会について、特に条件は定めない。

- 2 会員として入会しようとするものは、理事長が別に定める入会申込書により、理事長に申し込むものとする。
- 3 理事長は、前項の申し込みがあったとき、正当な理由がない限り、入会を認めなければならない。
- 4 理事長は、第2項のものを入会を認めないときは、速やかに、理由を付した書面をもって本人にその旨を通知しなければならない。

[入会金及び会費]

第8条 会員は、総会において別に定める入会金及び会費を納入しなければならない。

[会員の資格喪失]

第9条 会員が次の各号の一に該当する場合には、その資格を喪失する。

- (1) 退会届の提出をしたとき。
- (2) 本人が死亡し、若しくは失そう宣言を受け、又は会員である団体が消滅したとき。
- (3) 継続して2年以上会費を滞納したとき。
- (4) 除名されたとき。

[退会]

第10条 会員は、理事長が別に定める退会届を理事長に提出し、任意に退会することができる。

[除名]

第11条 会員が次の各号の一に該当する場合には、総会の議決により、これを除名することができる。この場合、その会員に対し、議決の前に弁明の機会を与えなければならない。

- (1) この定款に違反したとき。
- (2) この法人の名誉を傷つけ、又は目的に反する行動をしたとき。

第4章 役員及び職員等

[種別及び定数]

第12条 この法人に、次の役員を置く。

- (1) 理事4人以上30人以内
 - (2) 監事1人以上3人以内
- 2 理事のうち1人を理事長、副理事長を若干名、常務理事を1人置くことができる。

[選任等]

第13条 理事及び監事は、総会において選任する。

- 2 理事長及び副理事長並びに常務理事は、理事の互選とする。
- 3 役員のうちには、それぞれの役員について、その配偶者若しくは三親等以内の親族が役員総数の3分の1を超えて含まれることにはならない。
- 4 法第20条各号のいずれかに該当する者は、この法人の役員になることができない。
- 5 監事は、理事又はこの法人の職員を兼ねてはならない。

[職務]

第14条 理事長は、この法人を代表し、その業務を総理する。

- 2 理事長以外の理事は、法人の業務について、この法人を代表しない。
- 3 副理事長は、理事長を補佐し、理事長に事故があるときまたは理事長が欠けたときは、その職務を代行する。
- 4 理事は、理事会を構成し、この定款の定め及び総会または理事会の議決に基づき、この法人の業務を執行する。
- 5 監事は、次に掲げる職務を行う。
 - (1) 理事の業務執行の状況を監査すること。
 - (2) この法人の財産の状況を監査すること。
 - (3) 前2号の規定による監査の結果、この法人の業務又は財産に関し不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実があることを発見した場合には、これを総会又は所轄庁に報告すること。
 - (4) 前号の報告をするために必要がある場合には、総会を招集すること。
 - (5) 理事の業務執行の状況又はこの法人の財産の状況について、理事に意見を述べること。

[任期等]

第15条 役員任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

- 2 補欠のため、又は増員により就任した役員の任期は、それぞれの前任者又は現任者任期の残存期間とする。
- 3 役員は、辞任又は任期満了後においても、後任者が就任するまでは、その職務を行わなければならない。

[欠員補充]

第16条 理事長は監事のうち、その定数の3分の1を超えるものが欠けたときは、遅滞なくこれを補充しなければならない。

[解任]

第17条 役員が次の各号の一に該当する場合には、総会の議決により、これを解任することができる。

- (1) 心身の故障のため、職務の遂行に堪えないと認められるとき。
- (2) 職務上の義務違反その他役員としてふさわしくない行為があったとき。

2 前項の規定により役員を解任しようとする場合は、議決の前に当該役員に弁明の機会を与えなければならない。

[報酬等]

第18条 役員は、その総数の3分の1以下の範囲内で報酬を受けることができる。

- 2 役員には、その職務を執行するために要した費用を弁償することができる。
- 3 前2項に関し必要な事項は、総会の議決を経て、理事長が別に定める。

[職員]

第19条 この法人に、事務局長その他の職員を置く。

- 2 職員は、理事長が任免する。

[顧問]

第20条 この法人に、顧問を置くことができる。

- 2 顧問は理事会の推薦により、理事長が委嘱する。
- 3 顧問は、理事長の諮問に応じ意見を述べることができる。

第5章 総 会

[種別]

第21条 この法人の総会は、通常総会及び臨時総会の2種とする。

[総会の構成]

第22条 総会は、正会員をもって構成する。

[総会の機能]

第23条 総会は、以下の事項について議決する。

- (1) 定款の変更
- (2) 解散及び合併
- (3) 会員の除名
- (4) 事業計画及び予算並びにその変更
- (5) 事業報告及び決算
- (6) 役員を選任又は解任、職務及び報酬
- (7) 入会金及び会費の額
- (8) 借入金（その事業年度内の収益をもって償還する短期借入金を除く。第49条において同じ。）その他新たな義務の負担及び権利の放棄
- (9) 資産の管理の方法
- (10) 事務局の組織及び運営
- (11) その他運営に関する重要事項

[総会の開催]

第24条 通常総会は、毎年1回開催する。

2 臨時総会は、次に掲げる場合に開催する。

- (1) 理事会が必要と認め、召集の請求をしたとき。
- (2) 正会員総数の5分の1以上から会議の目的を記載した書面により召集の請求があったとき。
- (3) 監事が第14条第5項第4号の規定に基づいて召集するとき。

[総会の招集]

第25条 総会は、前条第2項第3号の場合を除いて、理事長が召集する。

2 理事長は、前条第2項第1号及び第2号の規定による請求があったときは、その日から10日以内に臨時総会を招集しなければならない。

3 総会を招集する場合には、会議の日時、場所、目的及び審議事項記載した書面により、開催日の少なくとも5日前までに通知しなければならない。

[総会の議長]

第26条 総会の議長は、その総会に出席した正会員の中から選出する。

[総会の定足数]

第27条 総会は、正会員総数の2分の1以上の出席がなければ開会することはできない。

[総会の議決]

第28条 総会における議決事項は、第24条第3項の規定によってあらかじめ通知した事項とする。

2 総会の議事は、この定款に規定するもののほか、出席した正会員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

[総会での表決権等]

第29条 各正会員の表決権は平等なものとする。

- 2 やむを得ない理由により総会に出席できない正会員は、あらかじめ通知された事項について書面をもって表決し、又は他の正会員を代理人として表決を委任することができる。
- 3 前項の規定により表決した正会員は、前2条の規定の適用については出席したものとみなす。
- 4 総会の議決について、特別の利害関係を有する正会員は、その議事の議決に加わることができない。

[総会の議事録]

第30条 総会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

- (1) 日時及び場所
- (2) 正会員総数及び出席者数（書面表決者又は表決委任者がある場合に合っては、その数を付記すること。）
- (3) 審議事項
- (4) 議事の経過の概要及び議決の結果
- (5) 議事録署名人の選任に関する事項

2 議事録には、議長及び総会において選任された議事録署名人2名が、記名押印又は署名しなければならない。

第6章 理事会

[理事会の構成]

第31条 理事会は、理事をもって構成する。

2 監事は、理事会に出席し、意見を述べることができる。

[理事会の機能]

第32条 理事会は、この定款に別に定める事項のほか、次の事項を議決する。

- (1) 総会に付議すべき事項
- (2) 総会の議決した事項の執行に関する事項
- (3) その他総会の議決を要しない業務の執行に関する事項

[理事会の開催]

第33条 理事会は、次に掲げる場合に開催する。

- (1) 理事長が必要と認めたとき。
- (2) 理事総数の2分の1以上から理事会の目的である事項を記載した書面により召集の請求があったとき。

[理事会の召集]

第34条 理事会は、理事長が召集する。

2 理事長は、前条第2号の場合にはその日から30日以内に理事会を召集しなければならない。

3 理事会を召集するときは、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面により、開催の日の少なくとも15日前までに通知しなければならない。

[理事会の議長]

第35条 理事会の議長は、理事長がこれにあたる。

[理事会の議決]

第36条 理事会における議決事項は、第34条第3項の規定によってあらかじめ通知した事項とする。

2 理事会の議事は、理事総数の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

[理事会の表決権等]

第37条 各理事の表決権は、平等なものとする。

2 やむを得ない理由のため理事会に出席できない理事は、あらかじめ通知された事項について書面をもって表決することができる。

3 前項の規定により表決された理事は、前条及び次条第1項の適用については、理事会に出席したものとみなす。

4 理事会の議決について、特別の利害関係を有する理事は、その議事の議決に加わることができない。

[理事会の議事録]

第38条 理事会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

- (1) 日時及び場所
- (2) 理事総数、出席者数及び出席者氏名（書面表決者にあつては、その旨を付記すること。）
- (3) 審議事項
- (4) 議事の経過の概要及び議決の結果
- (5) 議事録署名人の選任に関する事項

2 議事録には、議長及びその会議において選任された議事録署名人2人以上が記名押印又は署名しなければならない。

第7章 資産及び会計

[資産の構成]

第39条 この法人の資産は、次の各号に掲げるものをもって構成する。

- (1) 設立当初の財産目録に記載された資産
- (2) 入会金及び会費
- (3) 寄付金品
- (4) 財産から生じる収益
- (5) 事業に伴う収益
- (6) その他の収益

[資産の区分]

第40条 この法人の資産は、これを分けて特定非営利活動に係る事業に関する資産、その他の事業に

関する資産の2種とする。

[資産の管理]

第41条 この法人の資産は、理事長が管理し、その方法は、総会の議決を経て、理事長が別に定める。

[会計の原則]

第42条 この法人の会計は、法第27条各号に掲げる原則に従って行わなければならない。

[会計の区分]

第43条 この法人の会計は、次のとおり区分する。

- (1) 特定非営利活動に係る事業会計
- (2) その他の事業会計

[事業計画及び予算]

第44条 この法人の事業計画及びこれに伴う予算は、毎事業年度ごとに理事長が作成し、総会の議決を経なければならない。

[暫定予算]

第45条 前条の規定にかかわらず、やむを得ない理由により予算が成立しないときは、理事長は、理事会の議決を経て、予算成立の日まで前事業年度の予算に準じ収益費用を講じることができる。

- 2 前項の収益費用は、新たに成立した予算の収益費用とみなす。

[予算の追加及び更正]

第46条 予算成立後にやむを得ない理由が生じた時は、総会の議決を経て、既定予算の追加又は更正をすることができる。

[事業報告及び決算]

第47条 この法人の事業報告書、活動計算書、貸借対照表及び財産目録等決算に関する書類は、毎事業年度終了後、速やかに、理事長が作成し、監事の監査を受け、総会の議決を経なければならない。

- 2 決算上剰余金を生じたときは、次事業年度に繰り越すものとする。

[事業年度]

第48条 この法人の事業年度は、毎年4月1日に始まり、3月31日に終わる。

[臨機の措置]

第49条 予算をもって定めるもののほか、借入金の借入その他新たな義務の負担をし、又は権利の放棄をしようとするときは、総会の議決を経なければならない。

第8章 定款の変更、解散及び合併

[定款の変更]

第50条 この法人が定款を変更しようとするときは、総会に出席した正会員の4分の3以上の多数による議決を経、かつ、法第25条第3項に規定する事項については、所轄庁の認証を得なければならない。

2 この法人の定款を変更（前項の規定により所轄庁の認証を得なければならない事項を除く。）したときは、所轄庁に届け出なければならない。

[解散]

第51条 この法人は、次に掲げる事由により解散する。

- (1) 総会の決議
- (2) 目的とする特定非営利活動に係る事業の成功の不能
- (3) 正会員の欠亡
- (4) 合併
- (5) 破産手続開始の決定
- (6) 所轄庁による設立の認証の取消し

2 前項第1号の事由によりこの法人が解散するときは、正会員総数の4分の3以上の承諾を得なければならない。

3 第1項第2号の事由により解散するときは、所轄庁の認定を得なければならない。

[残余財産の帰属]

第52条 この法人が解散（合併又は破産手続開始の決定による解散を除く。）したときに残存する財産は、法第11条第3項に掲げる者のうち、総会において議決したものに譲渡するものとする。

[合併]

第53条 この法人が合併しようとするときは、総会において正会員総数の4分の3以上の議決を経、かつ、所轄庁の認証を得なければならない。

第9章 公告の方法

[公告の方法]

第54条 この法人の公告は、この法人の掲示場に掲示するとともに、官報に掲載して行う。

第10章 雑則

[細則]

第55条 この定款の施行について必要な細則は、理事会の議決を経て、理事長がこれを定める。

附則

1 この定款は、この法人の成立の日から施行する。

- 2 この法人の設立当初の役員は、別表のとおりとする。
- 3 この法人の設立当初の役員の任期は、第15条第1項の規定にかかわらず、この法人の成立の日から16年6月30日までとする。
- 4 この法人の設立当初の事業年度は、第42条の規定にかかわらず、この法人の成立の日から16年3月31日までとする。
- 5 この法人の設立当初の事業計画及び収支予算は、第44条の規定にかかわらず、設立総会の定めるところによる。
- 6 この法人の設立当初の入会金及び会費は、第8条の規定にかかわらず、次に掲げる額とする。
正会員 (1) 入会金0円 (2) 年会費10,000円
賛助会員 (1) 入会金20,000円 (2) 年会費480,000円

別表 設立当初の役員

役職名	氏名
理事長	藤田 史郎
副理事長	島田 精一
理 事	河合 光政
同	佐久間 昇二
同	浜口 直太
同	兒玉 康資
監 事	安藤 算浩